



こまくさ

令和2年
11月20日(金)
No.31

《教育目標》～夢に向かって やさしく! かしこく! たくましく!～

ふるさとPR隊 4年生が盛岡市で!

～肴町商店街で販売体験&仙北市PR～

11月9日(月)は仙岩峠で雪がちらつく寒い日でしたが、元気な4年生22名は、盛岡市肴町商店街に行き、仙北市のよさをPRするとともに、「あんべいいなチャーハン」と「ベリーなクッキー」の販売体験活動を行いました。

商店街に到着すると、はじめに盛岡市肴町商店街振興組合の大澤さんに全員であいさつをしました。大澤さんからは、毎年生保内小学校から仙北市のPRに来てくれてありがとうございます。子どもたちの元気な姿から盛岡市の人たちもたくさん元気をもらえてうれしいです。というお話をいただきました。その後、商品を売る係と仙北市をPRする係に分かれ、活動を開始しました。月曜日ということもあり、お客さんの出足はあまりよくありませんでしたが、4年生の子どもたちはそれに負けることなく、アーケード街に響き渡る元気な声で宣伝をしたり、販売をしたりしてがんばっていました。

この日はテレビ岩手から取材に来ていて、ニュースで紹介してくれるためインタビューなどもされていました。この様子は9日の夕方のニュースで岩手県全体に紹介されました。後日、テレビ岩手の菊池さんという方が、ニュースの様子をDVDにして学校に送ってくださいましたので、生保内小学校のホームページに掲載しておきました。是非ごらんになってください。また、菊池さんからは子どもたちにお土産とお手紙もいただきました。下に紹介します。



よろしく
お願いします



テレビ岩手キャスターの
古館さんから体験



仙北市のいいところ
を説明しました



テレビ岩手夕方のニュース
で紹介されました

盛岡の肴町アーケードに、今年も生保内小学校の4年生の元気な声が響き渡りました。「あんべいいなチャーハン」も「ベリーなクッキー」も、みんなのがんばりでたくさんの人たちが買ってくれましたね。

また、仙北市のPR活動では、田沢湖が日本一深い湖で、昔はクニマスが住んでいたということ。角館の武家屋敷やしだれ桜のことをパネルにしてとてもじょうずに説明してくれました。

クイズもとてもよかったです。みんなのふるさと仙北市のことがとてもよく分かりました。

4年生22人の力が一つになった最高のPR活動でした。百点満点です。

私は今年「あんべいいなチャーハン」二つと「ベリーなクッキー」二つを買って帰り、家で妻と二人で食べました。妻はみんなの住む生保内の山、秋田駒ヶ岳の岩手側のふもとにある栗石町橋場というところの出身です。

その妻は、「あんべいいなチャーハン」はあっさりしたやさしい味と、根曲がりだけと枝豆のゴリゴリ感が合っていて「とてもあんべいいな!」と話していました。

また、「ベリーなクッキー」もクッキーのやわらかさと、ブルベリーの味と食感が合っていておいしいと、私の分まで食べてしまいました。

PR活動では、地域のみなさんがたくさん来てくれていましたね。みなさんへの感謝の気持ちを大切にしてくださいね。

また、今の三年生にも、活動の様子を教えてあげてください。それを参考にして、今度は今の三年生が仙北市のPRをする番です。みんなの力を貸してあげてください。

教頭先生からの連絡を受けて、今年私は私が働いているテレビ岩手から、ニュースの取材に来てもらいました。みんなの元気なPR活動の様子が岩手県中に放送されました。放送されたニュースをDVDにして送ります。

これからの季節、雪や冬の寒さにも負けず、元気に楽しく小学校生活を送ってください。またどこかでお会いしましょう。

花巻市 菊池

文部科学大臣よりメッセージが届きました

児童虐待については、児童相談所の相談件数が増加するなど、依然として極めて深刻な状況です。また、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、生活不安やストレス等に伴い、児童虐待のリスクが高まることも懸念されています。

今回、萩生田文部科学大臣から、子供たちの育ちに関わる全国の家庭・学校・地域の皆さまに対して、児童虐待の根絶に向けたメッセージを発信しましたので、掲載いたします。

保護者、学校関係者、地域の皆さまへ

「児童虐待の根絶に向けて ～地域全体で子供たちを見守り育てるために～」

11月は児童虐待防止推進月間です。

子供たちへの虐待は、児童相談所の相談対応件数が増加するなど、依然として極めて深刻な状況です。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、生活不安やストレス等に伴い、児童虐待のリスクが高まることも懸念されています。児童虐待により子供たちが傷つき、亡くなるようなことは、何としても無くさなければなりません。

虐待は、殴る、蹴るといった身体的虐待ではありません。言葉で脅す、無視するなどの心理的虐待、子供を残して外出する、自動車の中に放置する、食事を与えないなどのネグレクトや性的虐待もあります。いずれも子供たちの心身に深い傷を残します。

保護者の皆さま、大切なお子さまの健やかな成長のため、「虐待はしない」と誓ってください。子育てに不安や悩みがある時には、身近な人に相談したり、自治体の相談窓口等を頼ってください。

学校関係者の皆さま、日頃から子供たちと接する中で、児童虐待と疑われる事案に気付いた際は、速やかにチームとして対応し、市町村や児童相談所に通告するとともに、関係機関と連携して対応してください。

地域で子供たちと接する皆さま、是非、子供たちの様子に関心を持って見守ってください。日々の活動やつながりの中で児童虐待と疑われる事案に気付いた際は、最寄りの児童相談所に繋がる全国共通ダイヤル「189」（“いちはやく”）に相談・通告してください。

児童虐待の防止には、家庭・学校・地域が一丸となって子供たちを見守り、育てることが重要です。文部科学省としても、関係省庁とともに取組を推進してまいります。皆さまの御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

令和2年11月

文部科学大臣

萩生田 光一